

1. 流域の自然状況

米代川は、その源を秋田県、青森県及び岩手県の3県境に位置する中岳（標高1,024m）に発し、一旦、岩手県を南下した後、その向きを西に変えて秋田県に入り、大湯川等の支川を合わせながら、大館盆地を貫流する。

ニツ井町付近で阿仁川及び藤琴川等の支川を合わせ、能代市において日本海に注ぐ、幹川流路延長136km、流域面積4,100km²の一級河川である。

また、秋田県と青森県にまたがり米代川流域の一部を占める白神山地は、世界最大級の規模でブナの原生林が分布し、手つかずの貴重な自然の宝庫であるため、平成5年に世界遺産として登録された。

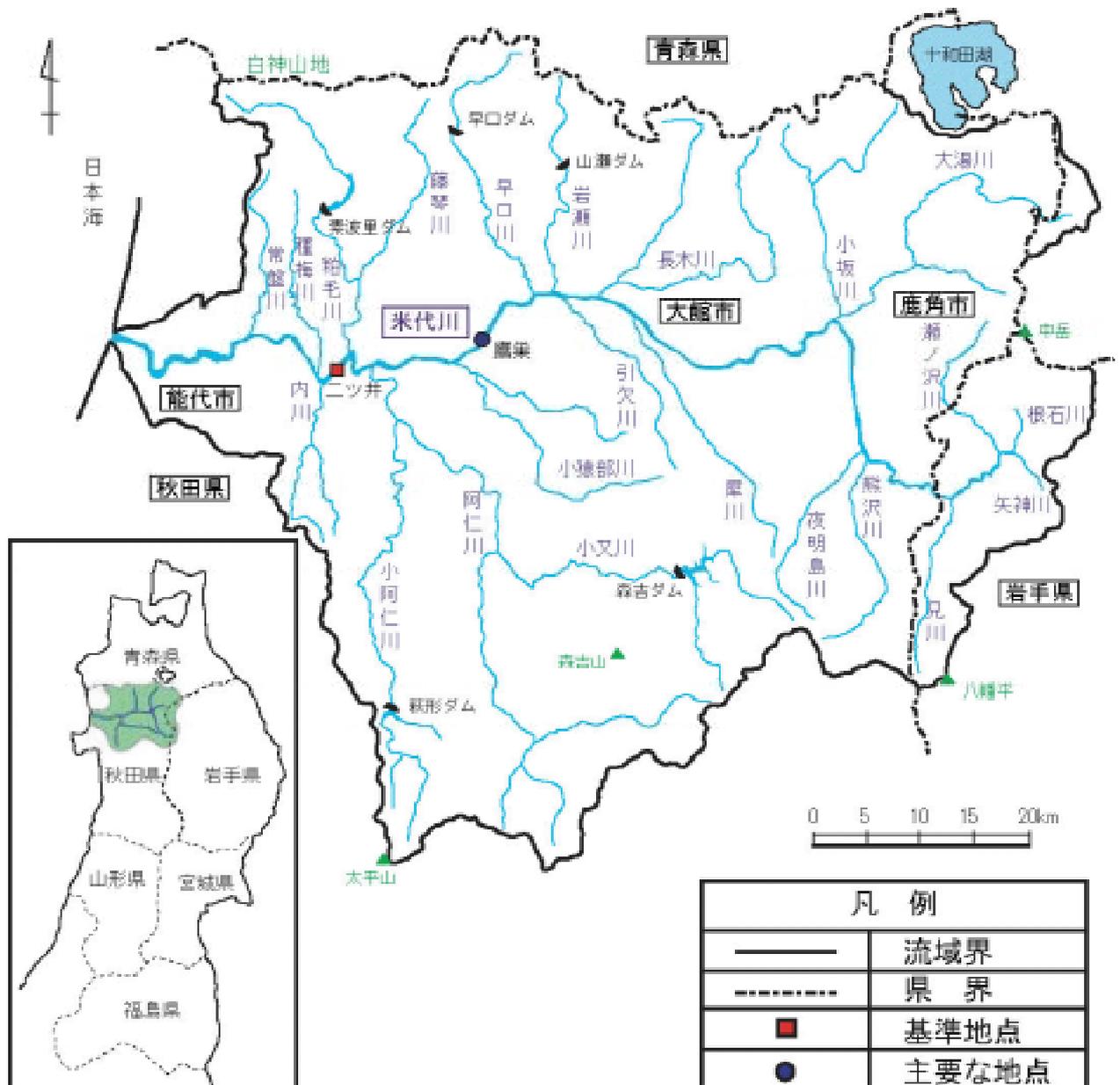


図1-1 米代川水系流域図



出典：能代工事事務所資料



出典：二ツ井町資料

【白神山地世界遺産地域】

米代川支川の藤琴川支川^{かすげかわ}粕毛川上流域の白神山地は、ブナの原生林が大規模にわたって分布し、世界的にも希少な地域である。

世界遺産地域の面積は16,971haであり、その内秋田県分は4,344haである。



【米代川源流部（中岳）】

秋田・青森・岩手県の県境に位置する標高1,024mの中岳を源流とする米代川。

出典：能代工事事務所資料



【米代川上流部（鹿角市）】

中岳より、岩手県安代町を経て、鹿角市を流れる米代川。

出典：秋田県鹿角建設事務所



【米代川中流部（大館市）】
 中流部に位置する県内第 2 位の人口規模である大館市を流れる米代川。
 上流の花輪盆地を経て、中流の大館盆地、鷹巣盆地を流下し、下流の能代平野に流れる。

出典：能代工事事務所資料



【米代川下流部（能代市）】
 幹川流路延長 136km の米代川は、能代市にて日本海に注ぐ。

出典：能代工事事務所資料

1 - 1 地形

米代川流域は、北部の秋田県及び青森県境にまたがる白神山地、東部の東北地方中央部を南北に縦断する奥羽山脈、南部の出羽山地及び太平山地に囲まれている。流域は東西約80km、南北約70kmであり、やや不規則な5角形の形状を呈しており、上流から花輪盆地（標高約100m）、大館盆地（標高約50m）、鷹巣盆地（標高約20m）、能代平野が形成され、米代川はこれら平野や盆地のほぼ中央部を貫流する。

また、各盆地は湖盆地と考えられており、階段状に配列され、各盆地はそれぞれ山地によって隔てられ、これらの山地にあたる二ツ井町付近、田代町付近、大館市十二所付近は狭窄部となっている。

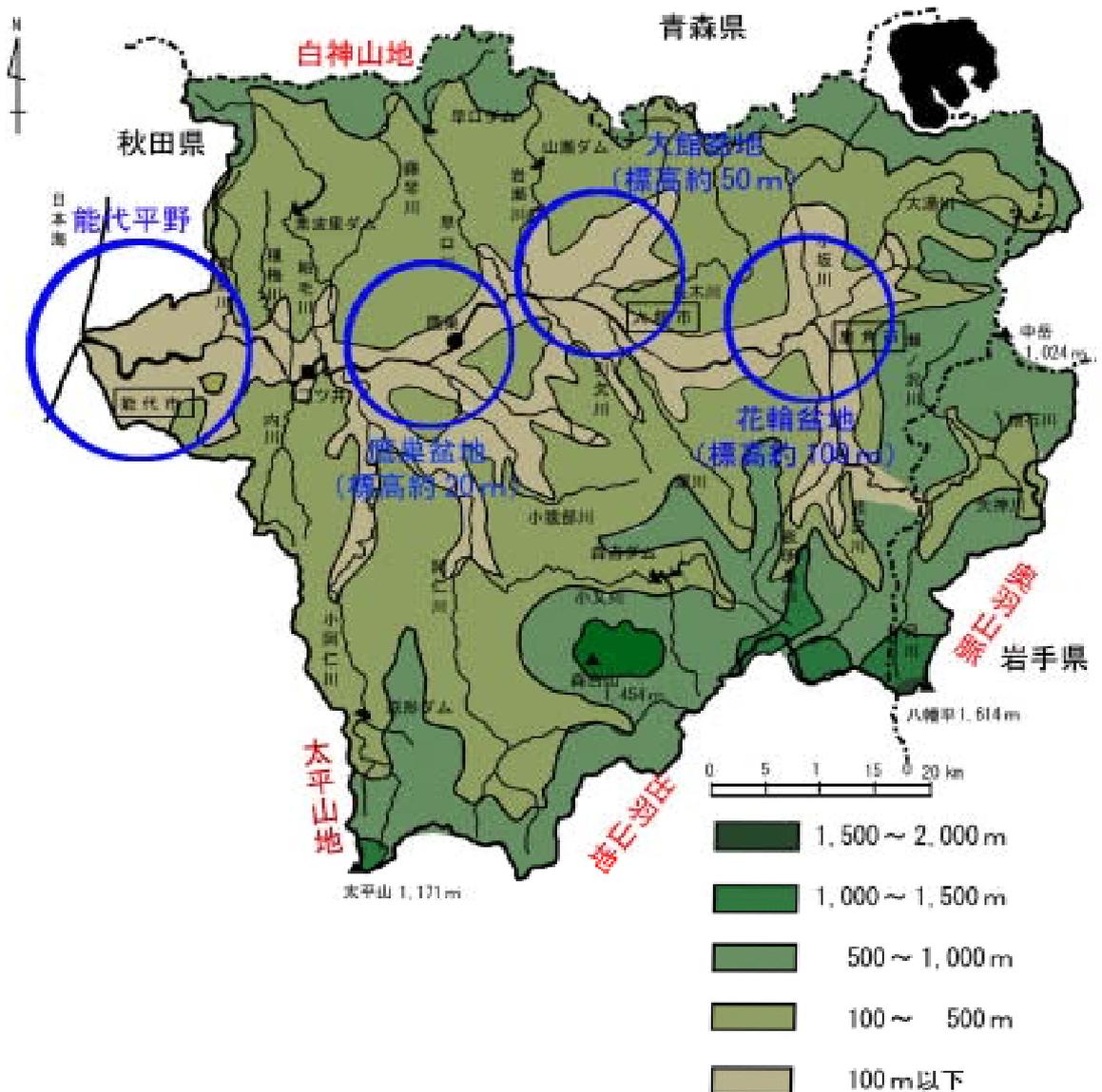


図1-2 米代川流域地形概要図

資料：建設省東北地方建設局「東北の河川」

1 - 3 気候

秋田県の大部分は、対馬暖流の影響を受けた湿潤温暖な日本海型の冷温帯気候に属しているものの、その気候特性の一つは、沿岸部と内陸部に顕著な違いが見られることである。

米代川流域が属する県北地域では、対馬暖流の影響を受ける沿岸地方で、冬期でも比較的温暖であるが、内陸部では奥羽山脈沿いの地域ほど気温が低く、沿岸と内陸の寒暖差が大きいのが特徴である。とくに、太平洋側気候の影響も見られる鹿角地方は冬期の寒暖差が大きくなっている。

流域の年降水量は、本川沿いで約1,400～1,600mmであり、支川上流の阿仁合では約2,100mm、本川上流の鹿角では1,300mmと地域的な偏りが大きいものとなっている。米代川流域雨量は概ね1,400～2,200mmである。

また、県北地域は県南地域に比べ積雪量が少ないものの、全域が積雪寒冷地域及び豪雪地帯に指定されている日本有数の多雪地帯となっており、とくに森吉山周辺等が降雪量の多い地域となっている。

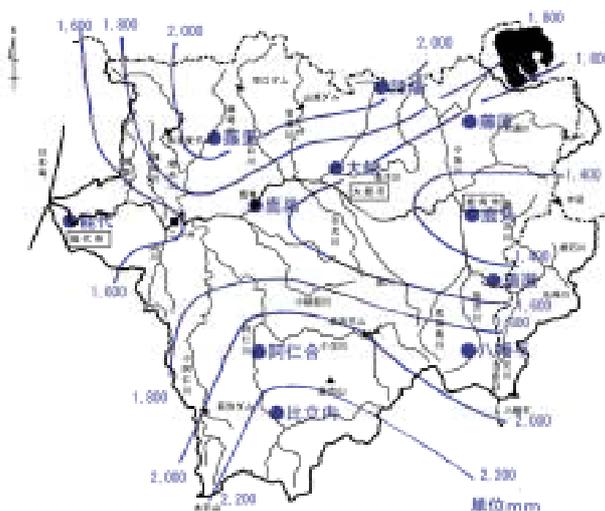


図1-4 米代川流域の年間平均降水量分布図
資料：秋田地方気象台資料
注) 統計期間
藤原地点：1983～2000年(18ヶ年)
その他地点：1979～2000年(22ヶ年)

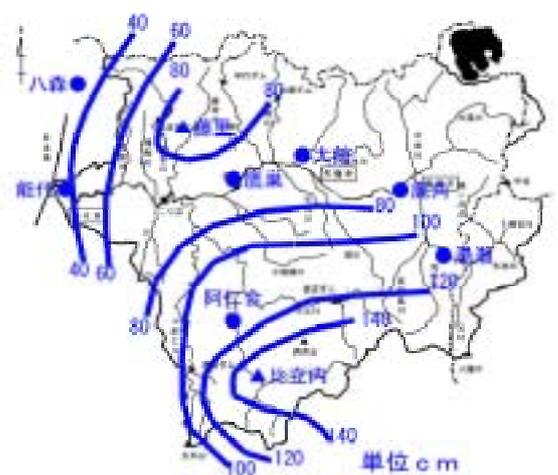


図1-5 米代川流域の寒侯期最深積雪平年値(11月～翌4月)
資料：秋田地方気象台資料
注) 統計期間
1979～2000年(22ヶ年)